



学校だより
ながや

令和4年度 第4号
令和4年 6月30日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

自律心を育む

副校長 菅原 明子

新年度が始まって3か月が過ぎようとしています。夏を思わせるような強い日差しと気温の上昇に熱中症が心配されるこの頃ですが、子どもたちは元気いっぱい。休み時間になると、多くの子どもたちが校庭で友達と遊ぶ時間を楽しんでいます。

6月14日にプール開きが行われ、全学年実施の水泳学習が始まりました。感染症の影響により、1～3年生にとっては、今年度が小学校で初めての水泳学習です。改修工事を終えたばかりのきれいなプールに負けなくらい、マスクをとった子どもたちの笑顔が輝いていました。水泳学習を終えた子どもたちに感想を聞くと、

「めっちゃ、楽しかった！」

「地獄のシャワーで（冷たくて）、叫びたくなかったけど、がまんしたんだよ。」

「お姉ちゃんから（水泳学習楽しいよって）、聞いていたんだけど、ホント楽しかったあ。」

といった声が、素敵な笑顔とともに返ってきました。感染症拡大防止対策を講じての実施ではありますが、通常の教育活動が戻ってきつつあることの嬉しさをしみじみと感じた瞬間でもありました。

さて、元気いっぱいの子どもたちですが、梅雨時期は、教室で過ごす時間が長いこともあり、廊下を走る姿が多く見られました。廊下で体の大きさの違う子ども同士がぶつかると、大きな怪我につながります。実際に打撲で保健室に来室する子どもも増えました。そこで、6月は、教職員全員が「ゆっくり歩こう」カードを名札ケースに入れて、指導にあたることとしました。

朝会で養護教諭から取組について説明があった日から、私も雨の日には廊下に立って子どもたちの様子を見守ることにしました。子どもたちの反応は実に様々です。廊下を歩くことが身に付いている子。声をかけられたことによって、自分から走ることを止めることができる子。声をかけられただけでは、走ることを止められず、一度静止を促されたことによって歩き始める子。一度静止されて歩き始めた子の中には、私を通りすぎたり、角を曲がったりした途端に走り出す子もいます。

私はどの行動もその子の「自律」の成長過程として捉えています。「自律」とは、自分で考え、正しく行動する態度（セルフコントロール）です。「自分も他の人も怪我をしないために歩く」という行動に向けて、「自らを律しようとする心」の働きを育てていくことが大切であると捉えています。だからこそ、走ってしまっている自分に「あっ」と気付いて歩き始めることができたその心の動きを褒めます。以前は走っていたけれど、意識して歩くことができるようになった姿を褒めます。友達に声を掛け合う姿や上級生が下の学年の子に優しく注意する姿も見られるようになりました。見守ることを通して子どもたちの変化や成長が見られることは、そこに立ち会える喜びでもあります。今後も廊下を歩くことが永谷小の「あたりまえ」となるまで、継続して子どもたちの変化と成長を見守っていきたいと思います。

学校に通う子どもの成長過程は様々ですが、集団生活の場では、誰もが安心して安全に過ごすため、一人ひとりが「よりよい行動」に向けて自らを律する力が求められます。最終的には、「誰かが見ていなくても」です。そして、その力を育むためには、子どもを信じて見守る大人のまなざしが必要です。永谷小学校では、保護者の皆様と力を合わせ、「チーム永谷」として、子どもを信じ、正しい方向性を促し、見守りながら自律心を育む教育活動に取り組んでまいります。ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。